

基地対策特別委員会 行政視察報告

2月16日から17日にかけて、委員6名、執行部1名、事務局随員2名、合計9名で、茨城県小美玉市^{おみたまし}、航空自衛隊百里基地^{ひゃくりきち}を視察してまいりました。

今回の行政視察は、航空自衛隊小松基地の航空機騒音の影響に関連して、近年、航空隊数や配備された機種に比較的大きな変化があった航空自衛隊百里基地について、同基地の所在地である小美玉市での航空機騒音状況の変化や基地対策事業などを中心に調査を行ったものです。

■茨城県小美玉市

【基地対策に関する施策の現状について】

小美玉市は、茨城県の中央部、水戸市から20km圏内に位置し、面積は約145km²、起伏が少ない平坦な地形が特徴で、南部は霞ヶ浦に接しています。

緑が多く、温暖な気候、災害の少ない肥沃な土地であることから、主要な産業として農業が定着しています。

市内東部には航空自衛隊百里基地が所在し、地域との調和を図るための防衛施設周辺対策事業を進

めており、主に公共施設や道路整備等を実施しています。

また、小美玉市では、防衛省からの補助金を財源とした施策として、航空機騒音の影響によりテレビの音声が届き取りにくい地域（騒音対策区域）に対し、NHK受信料の一部を助成しているとのことでした。

基地周辺

住民は、周辺住民整備協議会を組織し、小美玉市基地・空港対策課を通じて、北関東防衛局へ環境整備に関する要望書を提出しているとのことでした。

なお、事故などの発生に備え、基地との間で連絡体制を整備しているとのことでした。



▶ 茨城県小美玉市

■航空自衛隊百里基地

【基地周辺自治体との関係についてなど】

航空自衛隊百里基地は、一九三八年に発足した旧海軍百里原航空隊をその前身としています。

戦後、基地は一旦廃止され、跡地は農地として開放されましたが、一九五五年には地元から基地誘致運動が起こり、一九五八年に航空自衛隊百里分屯基地が発足し、現在に至っています。

そういった経緯もあり、一部住民の協力が得られず、滑走路への誘導路が「く」の字になっているなどの課題が残っているとのことでした。

基地では、業務内容についての説明を受けるとともに、実際に駐機場前で間近に航空機を見学し、滑走路に向かう様子や離陸する様子を見学しました。

機体は、小松基地で使用しているものとは異なるものの、その音量は航空機が見えなくなっても、音だけが遠くから聞こえるほど大きく、騒音対策の重要性を再確認したところでした。

なお、基地からは、業務における安全確保に努めていること、万一の事故などに備えて連絡体制を整備するとともに、航空祭などの広報活動を実施しているとの説明がありました。

■視察を終えて

小松基地周辺においては、F-35Aの配備による航空機騒音の変化及びこれに伴う令和8年以降に予定されている騒音区域見直しのための騒音度調査について、状況を注視していきたいと思えます。



▶ 航空自衛隊百里基地